10　家庭

学校番号	1009

令和２年度　家庭科

教科	家庭	科目	食文化	単位数	２単位	年次	３年後期
使用教科書	なし						
副教材等	ニューライブラリー家庭科　資料＋成分表　　（実教出版） 知っておきたい　食べ物の話　（教育図書）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

○　まず、日本の食文化を興味を持って、知ってほしいです。いままで、培われてきた日本の食文化を知ることにより、その大切さを発見する事ができるように、積極的に取り組みましょう。

次に、世界の食文化の多様性をを知り、自分たちの生活に取り入れる事ができるようにしましょう。

○　調理実習を通して実際に体験し、基本的な調理技術を身に付け、今後の生活に生かせるようにしましょう。

2　学習の到達目標

日本と世界の食文化に関する知識と技術を習得させ、食文化の伝承と想像に寄与する能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:技能	d:知識・理解
観点の趣旨	食文化の成り立ち、日本と世界の食文化等に関する知識と技術について関心をもち、その充実向上をめざして主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。	食文化の成り立ち、日本と世界の食文化等に関する知識と技術おいて生活の充実向上を図るための課題を見いだし、その解決をめざして思考を深め、適切に判断し、工夫し創造する能力を身に付けている。	食文化の成り立ち、日本と世界の食文化等に関する知識と技術関する基礎的・基本的な技術を身に付けている。	食文化の成り立ち、日本と世界の食文化等に関する知識と技術に関する基礎的・基本的な知識を身に付けている。
評価方法	学習状況の観察 ワークシートの記述、実習記録表 レポート、発表 自己評価　等	学習状況の観察 ワークシートの記述 実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果 自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ワークシートの記述 レポート、発表 定期考査、自己評価・相互評価等	学習状況の観察 ワークシートの記述 実習記録表 レポート、発表 定期考査の結果等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学期末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
後期	日本の食文化	・食生活の変遷 ・日常食・行事食・郷土料理などの特徴と文化 ＊＜調理実習＞ 行事食(おせち料理など) 伝統食品 郷土料理 等	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:日本につい関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:日本の各地域の特徴、課題を見いだし、その解決をめざして考え、表現している。 c:実習を通して、調理のの基本的な技術・特徴的な手法を身に付けている。 d:日本の食の食べ方、食生活の変遷に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。	授業観察 ワークシート レポート 定期考査
	世界の食文化	・世界各国の食文化の様子 ・日本の食文化との比較 ＊＜調理実習＞ アジア料理 中国料理 西洋料理 等	○ ○ ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	 ○ ○ ○	○ ○ ○ ○ ○	a:各地域の料理と・調理について関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 b:自分の今食生活の充実向上を図るための課題を見いだし、その解決をめざして考え表現している。 c:実習を通して、調理のの基本的な技術・特徴的な手法を身に付けている。 d:各地域の・献立・調理について自分の問題として捉えるための知識を身に付けている。	授業観察 ワークシート 実習記録表 レポート 発表 定期考査

※ 表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現
c:技能　d:知識・理解

※ ＊は、ワークショップ、実習・実験など実践的・体験的な学習活動や問題解決的な学習活動を示している。

※ 原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。